

第20期第16回常任理事会議事録

日 時 昭和55年2月13日(水) 15.00~17.00

場 所 気象庁観測部会議室

出席者 岸保, 小平, 浅井, 内田, 奥田, 関根, 新田,
松本, 増田

報 告

[庶 務]

1. 1月16日, 日本気象協会会長町田直氏から, 昭和55年度岡田賞受賞候補者推薦について依頼があった(締切3月20日).
2. 1月25日, 第7回 CODATA 国際会議組織委員会から, 教育訓練コース通知掲載について依頼があった.
3. 2月5日, 山本賞候補者推薦委員会委員長浅井富雄氏から, 選考経過および選定理由書が提出された.
4. 日本気象学会名誉会員並びに元理事長山本義一氏には, 昭和54年10月6日に仙台社会保険病院に入院, 加療中のところ, 2月7日膵臓疾患のため逝去された. 2月11日に仙台市の円福寺で執り行われた告別式には, 岸保理事長, 小平庶務理事が参列した. 学会からは, 弔電, 花輪, 香典をお供えした.

[天 気]

印刷業者は, 創刊号以来三報社印刷株式会社に引き受けさせてやってきたが, この際他の業者も検討してみる必要があるという意見が編集委員会が出た. そこで数社から見積書をとって同社と比較検討した結果, 三報社が一番安いので, 同社にやらせることとし, その代り約束に違反するようなことがないよう厳重に申し入れた.

[気象研究ノート]

138号の集中豪雨論が近く発刊になる。「気象レーダ特集」, 「エーロゾル」は, 原稿が集まりつつある。「気候変動」は, 一昨年, 昨年のシンポジウムについて計画中. 今後の計画: リモートセンシング, エーロゾル応用編, 惑星大気の問題等.

[講演企画]

春季大会のシンポジウムは, 「リモートセンシングと気象」. 座長は小平氏に依頼. 春季大会の参加者, 懇親会費等の払込みは, 福岡方式と同じく予約制を採用することになった. いったん払込んだ金額は, やむをえず欠席した場合返すかどうかは当番支部に任せることとした.

[教育と普及]

夏季大学は, 8月4日~8日までで, テーマは台風と決定. 場所は未定. 気象庁以外で行なう場合は, 参加費を増やしたい.

議 題

1. 会費の値上げについて

関根理事から次のとおり説明が行われた. (1) 地方理事に意見を求めたところ殆どどの理事が値上げに賛成である. 清水理事から会計年度を早く暦年に一致させるよう意見がよせられた. (2) 「天気」2月号に「学会財政の見通しについて」を掲載する. (3) 「天気」3月号に会費値上げについての理由書を掲載する. (4) 総会の議題に定款の一部改正(案)を提出する.

これに対し, 意見が交されたが, 主なものは, ア. 収入増を図るべきである. イ. 前納金が繰越金に含まれていて総額が多いのは会員に不審の念をいだかせる. ウ. 運営方針の検討等で, 会計年度の変更, 繰越金(前受金)を別にすること, 事業収入増等については改めて検討することにした.

2. 100周年記念事業について

岸保理事長から新提案が次のとおりあった. 地球大気開発計画(GARP)を推進している合同科学委員会(Joint Scientific Committee)から次の研究会議を推進してきた.

地球の気候と長期予報に及ぼす海洋中の諸過程の影響に関する研究会議: Study Conference on Impact of Ocean Processes on Global Climate and Extended Range Forecasting.

この提案では, JSCと海洋研究委員会(SCOR)の共催で1982年の早い時期に東京で開きたいといっている. これについて, (1) 記念事業とのかね合いでよい機会なので, 気象庁に招請して貰って気象学会その他は後援という形にしたい. (2) 外国からの出席者から何人かに記念講演をして貰う. 以上のことをふまえて3月末理事長がJSCの会合に出席した際申入れを行なう. さらに, WMOが1981年に提案している熱帯気象学に関する地域技術会議(Regional Technical Conference on Tropical Meteorology)を1982年にしてもらい, 気象学会がこれを共催することも含めて検討することにした.

(341頁につづく)

「天気」27. 5.

under low windspeed inversion conditions, NOAA Tech. memo., ERL ARL-52.

Wyngaard, J.C., 1971: On surface layer turbulence, Workshop on Micrometeorology, Ame, Met. Soc., p. 142.

Yasuda, N., 1978: High-order equations of turbulence and characteristics of turbulence based on their simple solutions in the atmospheric boundary layer near the Ground, Papers in Met. and Geophy., 29, No. 3, 109-123.

気象学会および関連学会行事予定

行 事 名	開 催 年 月 日	主 催 団 体 等	場 所
財団設立20周年記念講演会	昭和55年 6 月24日	東レ科学振興会	日本工業倶楽部
第24回山の気象シンポジウム	昭和55年 6 月28日		気象庁第1会議室
第17回理工学における同位元素研究発表会	昭和55年 6 月30日 ～7 月 2 日		国立教育会館
第14回夏季大学「新しい気象学」—台風特集—	昭和55年 7 月28日～31日	日本気象学会	日本教育会館
関西支部第2回夏季大学「新しい気象学」—台風をめぐって—	昭和55年 7 月30日～ 8 月 1 日	日本気象学会関西支部	大阪市立労働会館
第17回自然災害科学総合シンポジウム	昭和55年10月20日～21日		名古屋大学農学部
昭和55年日本気象学会秋季大会	昭和55年10月29日～31日	日本気象学会	京都教育文化センター
第6回リモートセンシングシンポジウム	昭和55年11月18日～19日	計測自動制御学会	国立教育会館
第18回粉体に関する討論会	昭和55年11月27日～29日	日本化学会ほか	豊橋技術科学大学

(342頁よりつづく)

なお、新田理事を準備委員会委員に委嘱するとともに2月18日第2回準備委員会を開くことを申し合わせた。

3. 科学技術データの流通利用に関する教育訓練コース会告掲載について、掲載することを了承。
4. その他
 - (1) 郵便料金に関する要望書の件 他学・協会と同一歩調をとることを了承。
 - (2) 山本賞受賞候補者の推薦について 浅井理事から、中村 一会員（東京大学理学部）を山本賞受賞候

補者として選考した経過が説明された。同会員は、「気象集誌」第56巻第5号に「大気大循環に及ぼす山岳の力学効果」の論文を発表したが、非常に労力の要する仕事を緻密にやっけてきたこと、年齢も若いし、将来に対する期待が持たれることで推薦した。なお、学会賞、藤原賞について推薦あり次第、山本賞と共に全理事の書面審査を受け、「天気」にも掲載することを了承した。

承認事項 柏原志朗ほか18名の新入会員を承認。